

# 脳科学の

# 倫理を考える

# 対話セッション

脳科学技術が変えるリハビリ～2040年、いかに老いるべきか？

脳科学研究と社会について、対話を通して考えてみませんか？ 特別な予備知識は必要ありません。脳や科学技術に興味のある方、よく知らないけど知ってみたい・じっくり考えてみたいという方ならどなたでもご参加いただけます。

今回のテーマは「BMI（ブレイン・マシン・インターフェース）とリハビリ・生活支援」。脳波などを読み取って機械を動かす「BMI」技術を通し、老いやリハビリの未来について考えます。第1部ではBMI研究者の牛場潤一さんに、ご自身の研究について話題提供していただきます。第2部では参加者から問いを募り、小人数グループでの対話を行います。

会場は車椅子でのアクセスが可能です。お子様連れでのご参加も歓迎いたします（託児はありません）。



## 話題提供

牛場 潤一

慶應義塾大学理工学部 生命情報学科 准教授  
慶應義塾大学基礎科学・基盤工学インスティテュート 主任研究員  
博士（工学）。専門はリハビリテーション神経科学。ヒトの感覚運動システムにおける神経機能の理解と制御を主眼として、工学技術を活かした神経科学研究をおこなっている。

- 日時：  
2018年4月14日（土）  
13:00-17:00
- 会場：  
東京大学本郷キャンパス  
医学部3号館1階 N101
- 定員：40名（参加無料・要登録）  
参加登録は <http://cbel.jp> より  
〆切：2018年3月30日（金）  
※応募者多数の場合は抽選となります

本企画は（独）日本医療研究開発機構（AMED）の事業である脳科学研究戦略推進プログラム・融合脳・「脳科学研究の倫理的・法的・社会的課題の解決に関する研究」の一部として実施します。